

香川県における畜産業の現状と環境対策について

香川県農政水産部畜産課

長 松 始

1 香川県のあらまし

本県は四国の北東部に位置し、南に連なる讃岐山脈と、これより北に向かって多数のため池が点在する讃岐平野が広がっています。北に望む瀬戸内海には、県花県木であるオリーブの産地として有名な小豆島をはじめとする大小116余の島々が点在しており、総延長700kmに及ぶ複雑な海岸線により風光明媚な地域を形成しています。

2 香川県の農業

本県の農家1戸当たりの耕地面積は約70aと全国の半分以下で経営規模の零細性は否めません。しかしながら、年間日照時間が長く温暖で、多彩な農産物の栽培が可能であり、かつ京阪神市場に近いなど恵まれた自然条件や地理的条件を備えています。このような周辺環境のもとで、米と園芸作物や畜産などを組み合わせた複合的な経営や、施設園芸などの集約的な経営が展開され、経営規模の零細性を補う土地生産性の高い農業が展開されています。

3 香川県の畜産

本県の畜産は、他県と比べ飼養戸数や頭羽数は少ないものの、県土面積に比較すると、各家畜とも全国上位ランクに位置づけられています。

平成17年における本県畜産の総産出額は268億円と県内農業産出額(810億円)の約33%を占めており、米や野菜の生産額より多く、本県農業の基幹部門となっています。

(1) 家畜の飼養状況

平成18年2月1日現在の家畜飼養状況について

は、乳用牛は197戸の6,800頭、肉用牛は362戸の18,700頭、豚は52戸の39,800頭、採卵鶏は123戸の6,168千羽、肉用鶏では57戸の1,986千羽が飼養されています。

いずれの畜種においても、飼養戸数は減少傾向にありますが、飼養頭羽数については、豚と採卵鶏でやや増加傾向にあります。

(2) 讃岐三畜の普及推進

その昔、香川県の特産物であった「砂糖・塩・綿」を「讃岐三白」と称していたことになり、特産畜産物である「讃岐牛」「讃岐夢豚」「讃岐コーチン」を「讃岐三畜」と呼ぶこととしたものです。これらの三銘柄を一体的に普及推進するため、平成10年からは、「讃岐三畜銘柄化推進協議会」を設立し、積極的に取り組んでいます。

① 讃岐牛

「讃岐牛」の歴史は古く、明治15年頃、全国に先駆けて小豆島で始まった黒毛和種の肥育が最初と

家畜飼養戸数と頭羽数 (18年2月1日現在)

畜種	飼養戸数 (戸)	飼養頭数 (頭・千羽)	1戸当たり (頭・千羽)
乳用牛	197	6,800	34.5
肉用牛	362	18,700	51.7
豚	52	39,800	765.4
採卵鶏	123	6,168	50.1
肉用鶏	57	1,968	34.5

されており、大正の初め頃からは、京阪神でも「讃岐牛」との愛称で呼ばれていたようです。

「讃岐牛」の定義は、香川県で飼育されたことはもちろん、血統明確な黒毛和種の牛で、(社)日本食



讃岐牛

肉格付協会制定の牛枝肉取引規格15ランクのうち、上位6ランクのものだけに称号を与えられます。

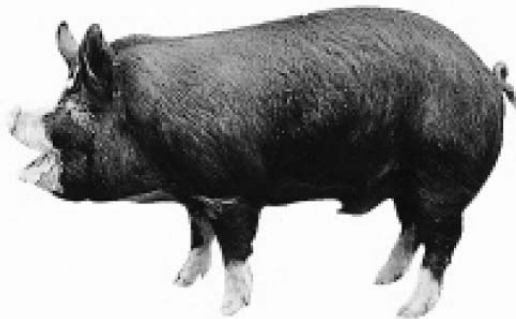
讃岐の人々のたゆまない努力と恵まれた気候風土の中で培われた伝統的肥育技術が、「讃岐牛」生産の礎となっており、その優れた品質、味の良さで県内外の人に賞賛されています。

また、平成18年には、県産肉用牛の生産基盤を強化することを目的に、鳥根県から優秀な黒毛和種種雄牛『讃福茂』号を香川県畜産試験場に導入しました。今後の肉用牛の生産拡大に大いに寄与するものと期待しています。

② 讃岐夢豚

豚肉に対する消費者ニーズが高品質へと指向するのに伴い、本県では平成6年に英国から肉質が良いとされるパークシャー種豚を導入し、県畜産試験場において地域特産高品質豚肉「讃岐夢豚」の開発に取り組み、平成10年度から生産が始まりました。

「讃岐夢豚」はパークシャー種の血液割合が50%以上の豚から得られる香川県産の豚肉であり、麦



讃岐夢豚

類を給与してじっくり育てられているため、その脂肪は真っ白で甘みがあり、風味とこくのある「やわらかくて美味しい豚肉」と評価されています。

③ 讃岐コーチン

全国的に知られる養鶏県としての優位性を活かしながら、より市場性の高い肉用鶏を開発するため、県畜産試験場では独自の育種改良を進めてきました。その中で、中国原産のコーチン（在来種）を素材として、交配、選抜を繰り返し、平成5年に「讃岐コーチン」が誕生しました。



讃岐コーチン

その鶏肉は、適度の歯ごたえとコクに富み、低脂肪で低カロリー、健康保持に不可欠なビタミンB1・リノール酸が多く含まれており、とてもヘルシーです。

また、平成17年には、讃岐コーチンが特定JAS規格制度のJAS地鶏肉の認定を受けました。認定規格を満たすことにより、消費者の皆様にも、さらに安全・安心で美味しい地鶏肉「讃岐コーチン」を食べていただけるようになりました。

4 県畜産物の安全性の確保

高病原性鳥インフルエンザをはじめ、口蹄疫、牛海綿状脳症（BSE）、ヨーネ病等の家畜伝染病が発生していることから、その発生予防及びまん延防止対策を迅速かつ的確に講じることができる体制を構築するため、防疫演習や畜産農家への立入検査等を実施しているところです。

県では農林水産物の安全・安心を確保するため、地

域の実情を踏まえて「香川県農林水産物の安全・安心確保計画」を毎年策定しています。これに基づき、ポジティブリスト制度の周知や動物用医薬品の適正使用を指導するとともに、HACCP手法に基づく衛生管理を推進しています。

5 畜産環境保全に対する取り組み

畜産業において家畜排せつ物を適正に管理することは必須条件であり、簡易対応から恒久的施設への転換と併せ、地域環境への負荷の低減、家畜たい肥の適切な農地還元による土づくりを促進するなど資源循環型畜産を推進しています。

1) 資源循環型畜産確立対策事業

畜産環境の保全のため、県関係機関や農協等関係団体の協力のもと、県域で香川県畜産経営環境保全推進指導協議会を組織して指導体制を構築するとともに、県内の東部と西部地域において地域協議会を組織し、畜産農家への巡回等を通じて、家畜排せつ物の適正処理の指導や実態調査等を行い、環境汚染の防止を図っています。以上のような指導により、畜産農家での野積み、素掘りといった不適正な管理は解消されています。

2) たい肥利用促進事業

家畜排せつ物処理施設の整備がほぼ整ったことから、今後は、良質なたい肥の生産を促進するとともに、生産者情報の提供、農地還元による土づくり、稲わら交換等を介した循環的な利活用など、たい肥の利用促進が強く求められています。

① 良質たい肥の生産等の支援

良質たい肥の生産を促進するため、畜産農家に対してたい肥化技術等の指導、畜産試験場における家畜排せつ物の処理・利用技術に関する研究開発のほか、畜産環境整備機構が実施する畜産環境アドバイザー養成研修等に参加し畜産技術者を養成しています。

平成18年度には、畜産農家における処理・利用状況を調査して、「畜産環境データベース」をとり

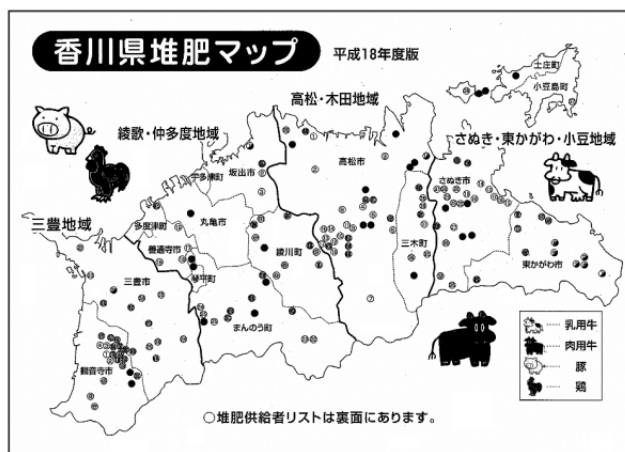
まとめたところであり、その結果を有効活用し畜産農家と耕種農家が連携強化を図ることとしています。

② たい肥マップの作成・配布による情報提供

畜産農家におけるたい肥生産・供給方法を調査して、掲載希望者(158名/4地域)についてたい肥マップを作成(4,000部)し、耕種農家等に配布するとともに、ホームページからの情報提供を行い、たい肥需要の促進を図っています。

③ 地域耕畜連携協議会の活動支援

県域で組織した循環型農業推進協議会に参加して、地域耕畜連携推進協議会(現時点で4箇所)の活動を支援しています。この協議会は、農業団体及びその生産部会、市町、県出先機関等から構成されており、良質たい肥の生産・流通の促進、農地施用による栽培実証、たい肥散布システムの構築など地域環境に応じた需給調整に向けて取り組みを進めています。



香川県たい肥マップ(全県版)



たい肥散布実演会の様子